

また、白い歯で治療して欲しいといった審美的な関心や金属アレルギー対策などから金属を用いない補綴物の普及が進んでいる。

弊社では、8年前にCAD/CAMシステムを導入し、メタルフリークラウンの製作を開始、以後も新素材にチャレンジし製作、提供を行なっている。現在取り扱っているのはCAD/CAMを利用したもの（ジルコニアクラウン、Z冠、CAD/CAM冠）、加熱・加圧成型で製作するもの（e.max）がある。

どちらもジルコニアを素材とするが、色調の再現性に優れるジルコニアクラウンと、支台歯形成量が少なくても強度がとれるZ冠の特長や適応症について、また平成26年4月に保険適用されたCAD/CAM冠では工場での高度な管理下で製造されたハイブリッドセラミックスブロックが安定した物性を実現していること、さらに二ケイ酸リチウムガラスセラミックスを素材とするe.maxは審美的に優れていることなど製作工程を交えながら紹介した。

高校時の成績と本学での成績を比較すると、高校時の成績Aの学生は本学での成績も高く、高校時の成績が下がるに従って、本学での成績も低くなる傾向を示した。また、高校時の成績が低いDの学生ほど退学する傾向が見られた。

歯科技工士学科生の退学の実態について

相馬泰栄（歯科技工士学科）

今年度、読売新聞が国公私立大学744校を対象に「大学の實力・教育力向上の取り組み」についての調査を行い、その結果が掲載された。その中で、入試方法別の退学率が初めて明らかになり、AO入試者の6人に1人（15.5%）が退学していることが明らかになった。本学も平成15年度生からAO入試が実施され、現在に至っている。そこで本学科生の退学の実態を調査した。

対象者は平成18年から24年までの入学生320名の高校時の資料及び本学科の卒業資料を基に行った。本学科の内訳は、男子は172名（53.8%）、女子は148名（46.3%）。入試方法別の入学者ではAO入学は153名（47.8%）、指定校制推薦入学が115名（35.9%）、一般入試・公募制推薦・社会人特別選抜・専門学科入学者は10%未満であった。

入学生の高校時の成績では成績Aは女性が多く、成績Cは男性に多く見られた。

退学者数は25名（7.8%）で、入試方法別の退学者ではAO入学が14名（9.2%）で最も多く、指定校制推薦入学が6名（5.2%）あったが男女別の退学率に差は見られなかった。